

<セルフメディケーションについて>

【調査の目的】

令和3年1月1日現在の住民基本台帳等に基づく本県の65歳以上の高齢者は、1,412,487人（前年同日現在1,396,887人）に達し、総人口の27.6%（前年同日現在27.2%）を占めています。団塊の世代が75歳以上となる2025年（令和7年）以降は、医療や介護の需要が、さらに増加することが見込まれています。

急速な高齢化や社会構造の多様化・複雑化が進む中で、自分自身の健康に責任を持ち、軽度な身体の不調は自分で手当てする「セルフメディケーション」(※)を通じた疾病の予防、早期発見、治療が重要となってきます。

セルフメディケーションを推進するため、皆様のご意見をお聴かせいただき、今後の行政施策の参考とさせていただきたいと思っております。

【活用状況】

このたびは、貴重な御意見ありがとうございます。

セルフメディケーション推進の具体的事業等を総合的に検討するための基礎資料とさせていただきます。

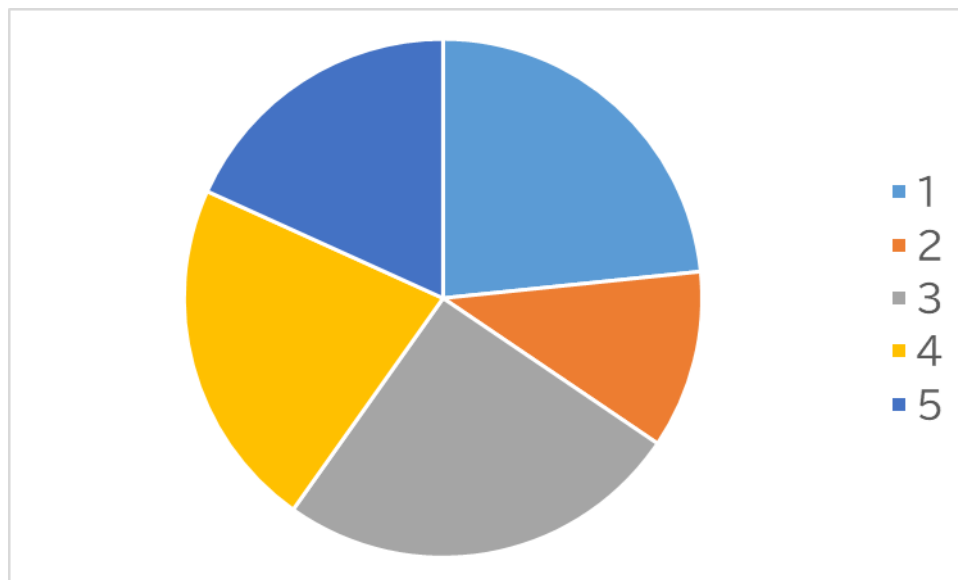
(保健医療介護部薬務課)

※ セルフメディケーションとは

世界保健機関（WHO）は「自分自身の健康に責任を持ち、軽度な身体の不調は自分で手当てすること」と定義しています。

日頃から健康を意識し、軽度な身体の不調には市販薬を使用して健康の維持や疾病の予防・改善を心懸け、セルフメディケーションを実践することで、健康寿命の延伸につながります。

< 1 > あなたは、「セルフメディケーション」について知っていますか。また、「セルフメディケーション」を実践していますか。



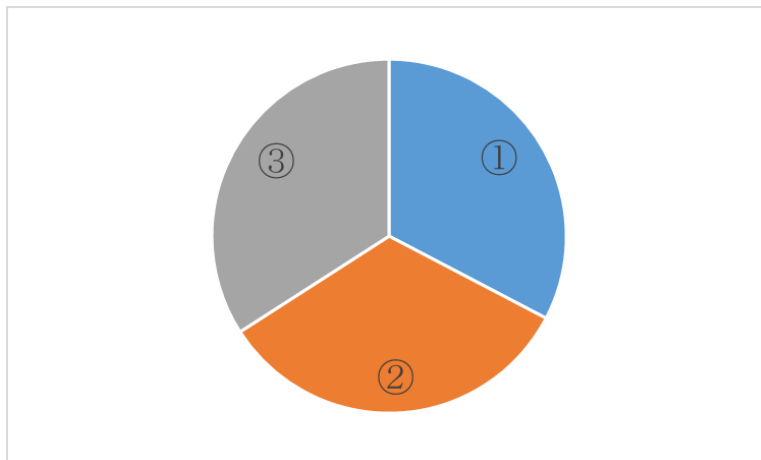
(N=351 選択肢は1つのみ)

1	知っており、実践している	23.4%	(82名)
2	知っているが、実践はしていない	11.1%	(39名)
3	言葉は知っているが、内容などはよく知らない	25.4%	(89名)
4	言葉は知らなかったが、内容は実践している	21.9%	(77名)
5	知らない	18.2%	(64名)

無回答 0.0% (0名)

<1：参考>令和元年度 県政モニターアンケート調査結果

あなたは「セルフメディケーション」という言葉を知っていましたか。

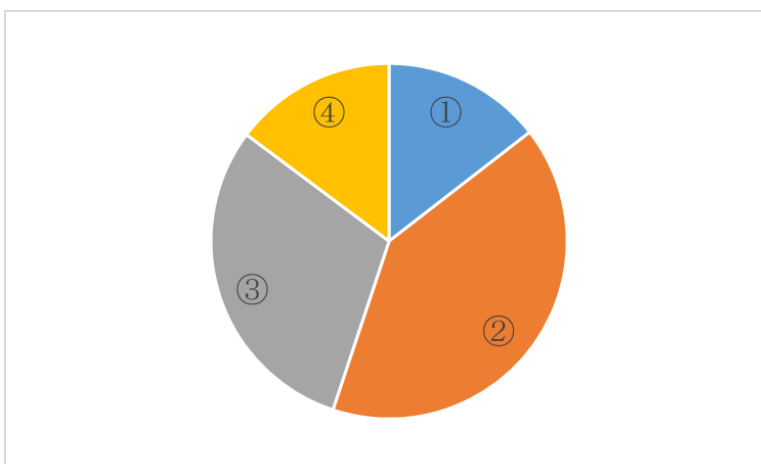


(N=352 選択肢は1つのみ)

① 知っていた	32.7%	(115名)
② 聞いたことはあったが、よく知らなかった	33.2%	(117名)
③ 知らなかった	34.1%	(120名)

無回答 0.0% (0名)

あなたはセルフメディケーションを実践していますか。



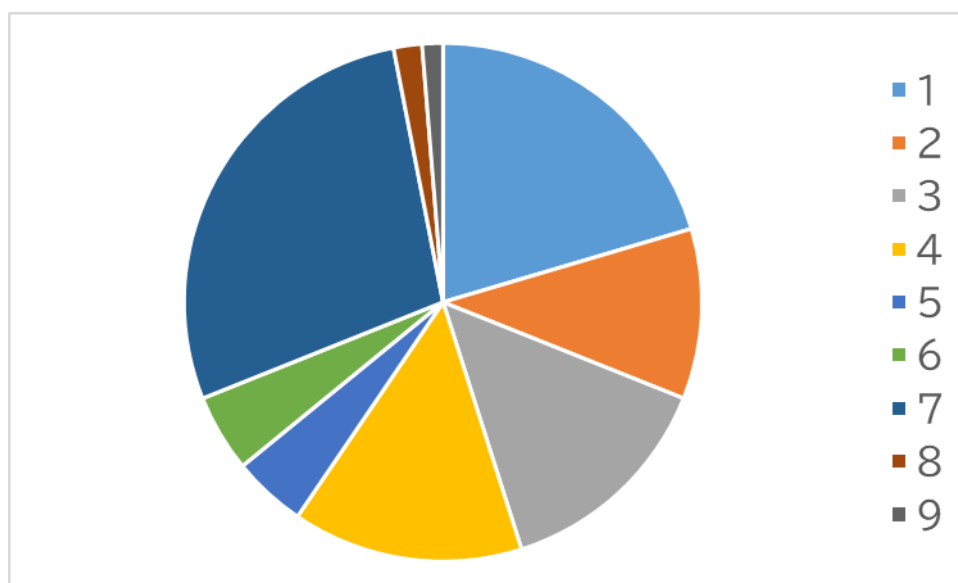
(N=352 選択肢は1つのみ)

① 日頃から実践している	14.5%	(51名)
② おおむね実践している	40.6%	(143名)
③ あまり意識していない	30.1%	(106名)
④ 全く意識していない	14.8%	(52名)

無回答 0.0% (0名)

< 2 > 医薬品についてよくわからない時には、自分だけで判断せず、薬の専門家に相談することが大切です。

あなたは、医薬品についてわからないことは誰に相談していますか。



(N=351 複数選択可)

1	医療機関の医師に相談している	20.4%	(173名)
2	医療機関の薬剤師に相談している	10.6%	(90名)
3	薬局の薬剤師に相談している	14.0%	(119名)
4	ドラッグストアの薬剤師に相談している	14.4%	(122名)
5	ドラッグストアの登録販売者に相談している	4.6%	(39名)
6	医療従事者ではない家族や知り合いに相談している	4.8%	(41名)
7	インターネット等を用い、自分で調べている	28.0%	(237名)
8	誰かに相談することはほとんどなく、自分で調べることもない	1.8%	(15名)
9	その他 (次の設問で具体的に入力してください)	1.3%	(11名)

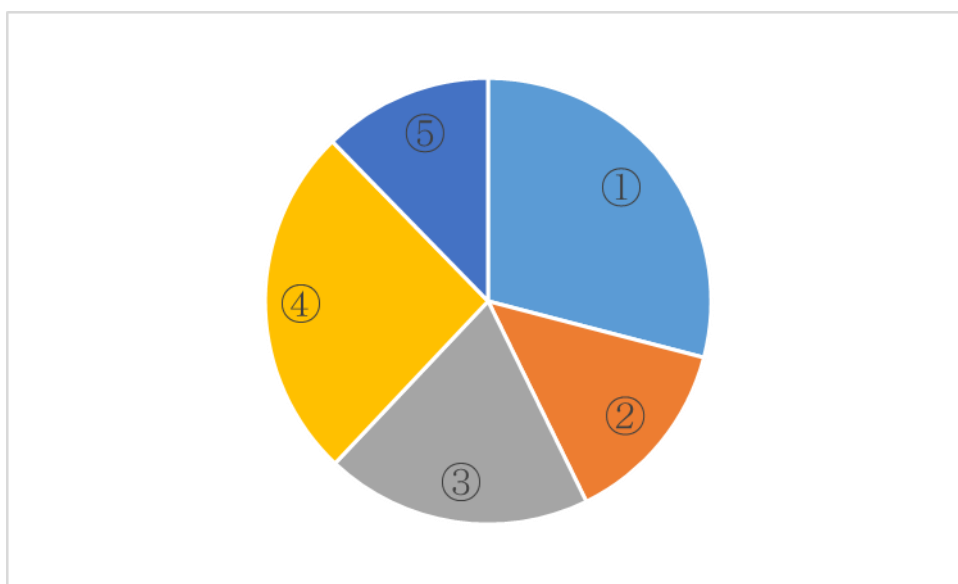
無回答 0.0% (0名)

[その他 (抜粋)]

- ・職場が医療機関なので、周囲の同僚達に聞いてアドバイスをもらう。
- ・薬剤師資格を持っている知人に質問する。
- ・自分自身が薬剤師のため最低限の知識はある。
- ・あまりよくわからないと思ったことがない
- ・家族・親戚の医療従事者に尋ねる。
- ・医療従事者の家族 (看護師) に相談している
- ・自分も登録販売者の資格を持っているので仲間に聞いたりしている

< 2 : 参考 > 令和元年度 県政モニターアンケート調査結果

医薬品についてよくわからない時には、自分だけで判断せず、薬の専門家に相談することが大切です。あなたは、医薬品についてわからないことがあったときは薬の専門家に相談していますか。



(N=352 複数選択可)

① 医療機関の医師に相談している	29.1%	(170名)
② 医療機関の薬剤師に相談している	13.7%	(80名)
③ 薬局の薬剤師に相談している	19.3%	(113名)
④ ドラッグストアの薬剤師・登録販売者に相談している	25.6%	(150名)
⑤ 専門家に相談することはほとんどない	12.3%	(72名)

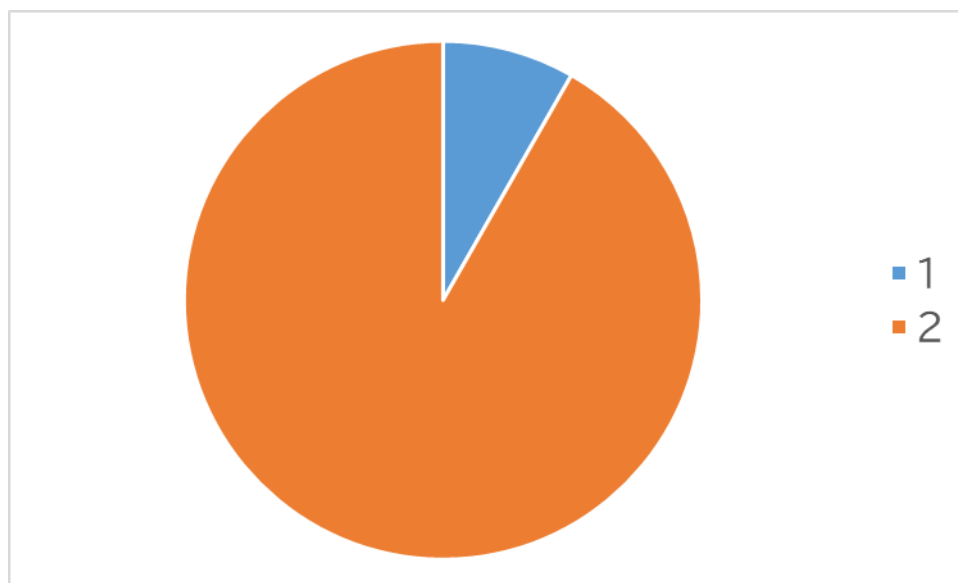
無回答 0.0% (0名)

< 3 > あなたは、「健康サポート薬局」という言葉を知っていますか。

※ 健康サポート薬局とは

厚生労働大臣が定める一定の基準を満たしている薬局として、かかりつけ薬剤師・薬局の機能に加えて、市販薬や健康食品に関することはもちろん、介護や食事・栄養摂取に関することまで、気軽に相談できる薬局のこと。

令和3年3月末時点で、福岡県内に103の健康サポート薬局がある。

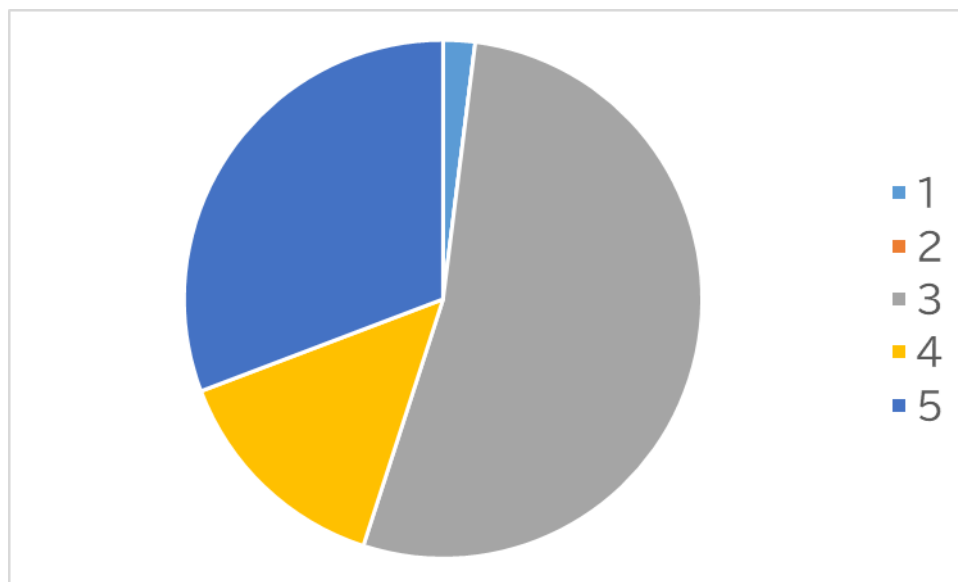


(N=351 選択肢は1つのみ)

1 知っている	8.3%	(29名)
2 知らない	91.7%	(322名)

無回答 0.0% (0名)

＜4＞ あなたは、医薬品に関する相談をしたり、市販薬を購入したりするときに、健康サポート薬局を利用していますか。また、健康サポート薬局を利用したいと思いませんか。



(N=351 選択肢は1つのみ)

1 健康サポート薬局を利用したことがあり、今後も利用したいと思う	2.0%	(7名)
2 健康サポート薬局を利用したことがあるが、今後は利用したいと思わない	0.0%	(0名)
3 健康サポート薬局を利用したことはないが、今後利用したいと思う	53.0%	(186名)
4 健康サポート薬局を利用したことはなく、今後も利用したいと思わない	14.2%	(50名)
5 わからない	30.8%	(108名)

無回答 0.0% (0名)

〔「1 健康サポート薬局を利用したことがあり、今後も利用したいと思う」の理由〕

今回、コロナワクチン接種して持病持ちの娘が具合悪くなり、近くのドラッグストアで利用させてもらった。今までは、熱がでて「まっいいか」でしたが、初めて色々体調を伝え処方してもらって、服用させると、体調も落ち着いた。このことで、必要性を感じた。
健康についてたくさんのことを聞いてみたい。
薬の飲み合わせや、薬の効能を知りたい為。
今飲んでいる薬について詳しいから。
持病があり薬を常用しているので、飲み合わせについて詳しく教えてもらいたいので、利

用したいと思っています。

サポート薬局と言う看板で気軽に相談出来る感覚があるので。

〔「3 健康サポート薬局を利用したことはないが、今後利用したいと思う」の理由(抜粋)〕

私には祖母がいるので、介護や食事の事を気軽に相談できるのがいいと思ったから。

薬に関する疑問や相談だけでなく、栄養管理や介護といったことも相談できるのがいいと思います。また、厚生労働省から認定されているという安心感もあります。

市販薬の効果や使い方について詳細に知りたいと思う時があるから。

今まではそういう制度を知らず、自身の判断で服薬をしてきたため、不安がある場合は非活用したいと思います。

薬のことだけでなく、食事のことも相談できるのはとてもたまになると思うので助言していただけたら助かるので。

授乳中のため、薬を飲む事自体を控えることが多くなっています。今後復職して時間の縛りができた時、病院にかからずに安心して薬を購入できる点に魅力を感じます。

インターネットでの情報は時に不確定で過激なものが多いので、ちゃんと知るにはそのような方たちの意見が信用できる。

薬から栄養まで総合的に専門家のアドバイスを聞けることは、健康維持していく上でとても大切だと思うから。また、医療機関で聞くよりも身近で気軽に聞くことができると思うから。

病気で処方されたクスリは薬剤師に聞けるが、サプリやちょっとした不調について相談できる機関があれば心強いと思うから。

私は持病があるし、母は80歳で認知症があって要介護なので健康サポート薬局にいろいろ相談したいです。

健康について、気軽に相談できる環境をつくっておきたいから。

市販薬や健康食品に関すること、介護や食事・栄養摂取に関することまで、気軽に相談できることから利用してみたい。

軽い症状であれば、当該薬局で尋ねて自分で治せそうなら助かるから。

医薬品については多種あるため、いつも選択に迷ってしまうので、そのような時に薬局で気軽に薬について相談できる薬剤師さんが居たらとても助かります。

自分個人としては病院にかかる程度でもなく、薬局の市販品を利用したいときには症状に合った薬を薬剤師や専門知識のある人に相談できると安心する。

健康サポート薬局という名称も初めて知った。よい取り組みだと思うのでもっと多くの人に知られるように広報が必要ではないか。

使用したい薬品や健康ドリンクなどが自分自身の体にどのような善悪の影響があるか知りたいから

〔「4 健康サポート薬局を利用したことはなく、今後も利用したいと思わない」の理由
(抜粋)〕

健康サポート薬局がどこにあるのか知らないので行かないと思います。
他の薬剤師の人たちと何が違うのかわからない。
どこにでもあれば利用するが、わざわざ“健康サポート薬局”がある所を探して利用するのが手間と時間がかかるから。
インターネットで調べた方が早い。
ネットで調べたら情報が出てくるのであえて健康サポート薬局を利用するメリットがないかなと思うので。
無駄な商品も勧められそうだから。
わざわざそんなところで聞かなくても処方される所で説明受けるし、薬局では薬剤師からの説明があるので必要ない
医薬品を利用する必要性を感じないため。
現状に満足している為。又、相談は医師で薬剤師さんには薬についての質問しかしたことがない。今後自分も歳を取り、病院や薬局の在り方も変われば利用するかもしれない。
薬局がいっぱいありすぎてどこにすればよいかわからない。
処方するのは医者なのになぜ薬局に相談しなければならないのか、理解できない。
市販薬を飲むことはないので、利用する必要がない。自分自身が介護、食事・栄養摂取について詳しいので。
身近な医者や薬局、ネットで調べて十分な情報を得られていると思う。直ぐ近くにある、という事なら利用するかもしれませんが。
上の説明を見ますと 素晴らしいことが書いてありますが 説明通りのことが実践されているのか疑問です。また 現時点では医師と薬剤師で満足しています。

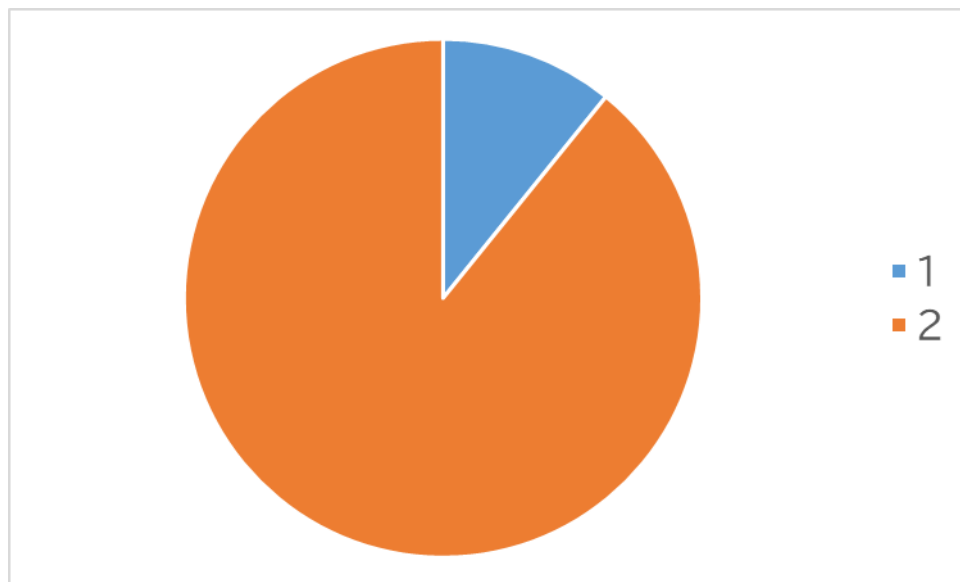
< 5 > あなたは、「地域連携薬局」という言葉を知っていますか。

※ 地域連携薬局とは

令和3年8月から始まった制度で、住み慣れた地域で医療や介護のサービスを切れ目なく利用できるようにするために、様々な医療関係者と連携を取り、地域・患者を支える薬局のこと。

地域連携薬局は、病院の入院時・退院時における情報連携をしたり、在宅医療で地域の薬局と連携しながら一元的・継続的に対応したりすることができる薬局として、県による認定を受けている。

令和3年9月末時点で、福岡県内に18の地域連携薬局がある。

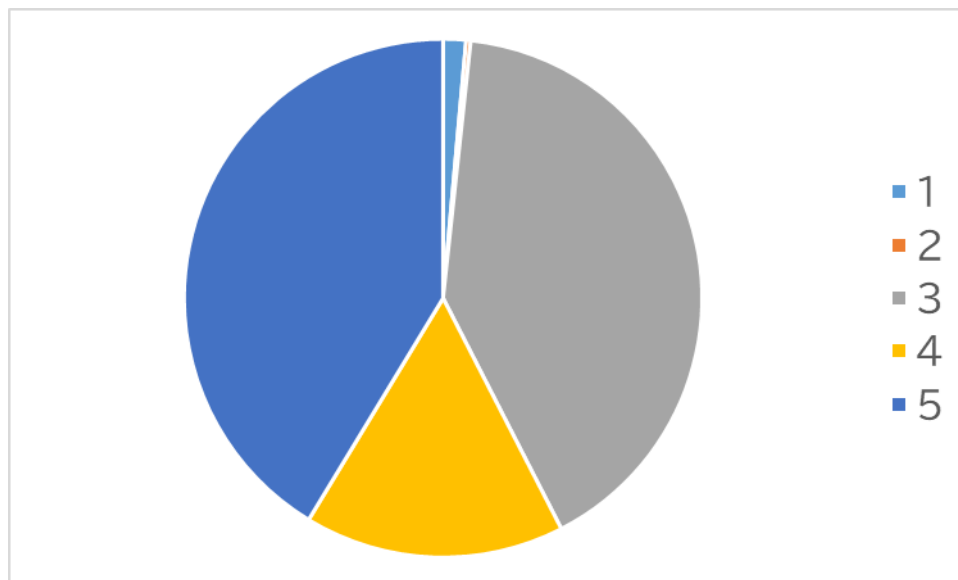


(N=351 選択肢は1つのみ)

1 知っている	10.8%	(38名)
2 知らない	89.2%	(313名)

無回答 0.0% (0名)

< 6 > あなたは、医薬品に関する相談をしたり、市販薬を購入したりするときに、地域連携薬局を利用していますか。また、地域連携薬局を利用したいと思いますか。



(N=351 選択肢は1つのみ)

1 地域連携薬局を利用したことがあり、今後も利用したいと思う	1.4%	(5名)
2 地域連携薬局を利用したことがあるが、今後は利用したいと思わない	0.3%	(1名)
3 地域連携薬局を利用したことはないが、今後利用したいと思う	40.7%	(143名)
4 地域連携薬局を利用したことはなく、今後も利用したいと思わない	16.2%	(57名)
5 わからない	41.3%	(145名)

無回答 0.0% (0名)

【「1 地域連携薬局を利用したことがあり、今後も利用したいと思う」の理由】

今まで取り扱ってきた薬など管理してもらえて、相談しやすいから
登録していますし、利用したことがあります。薬の専門家が身近にあるという安心感があります。今回、新型コロナワクチンについても色々相談させてもらったのでこれからも利用させていただきたいと思っています。
行政が認定すると言う事で安心感があるから。

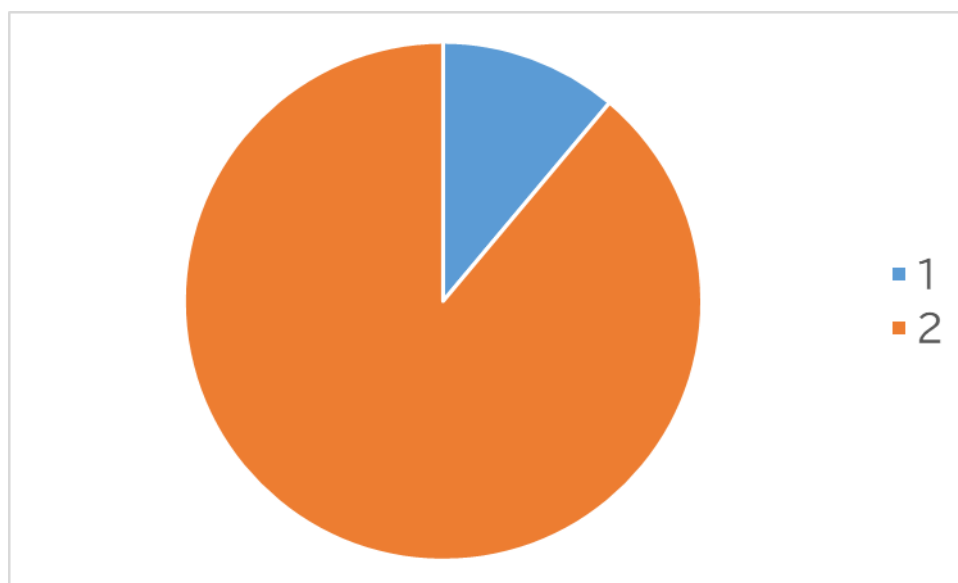
〔「3 地域連携薬局を利用したことはないが、今後利用したいと思う」の理由〕

住みなれた地域で正しい情報が得ることは手軽で安心だと思うからです。
情報を連携している薬局の方が信頼できるから
いろんな所と連携する事で色々把握し毎回説明する手間が省けそうだから
情報を共有してもらえることで継続して同じ薬を服用することができて効果が期待できると思うから。
地域で連携しているという安心感があるから
医療機関や地域の薬局と連携がとれていたら、緊急時に患者の情報の共有が迅速に行われて、適切な対応につながりやすいと思うからです。
在宅での薬剤の取り扱いや注意点、飲み合わせなど入院から継続して考え調整してもらえるため
地域の事情に精通していると考えられるため。
当該の薬局(薬剤師)の知識等が、そのレベルに達しているならば、医療の受診の要不要を含めて事前に相談出来れば便利だと思う。
病院の入退院時の情報を連携出来るから
利用する施設が変わる度に、自分の情報を提示するよりも、連携してもらえれば手間が省ける。
私は持病があり、母は認知症ですがいつまでも元気でいてほしいので病院と薬局が継続的に連携した地域連携薬局を利用したいです。
不測の事態が起こった時に地域連携薬局に相談しておけば速やかに適切な治療行為が可能になると思うので。
住み慣れた地域で医療や介護のサービスを切れ目なく利用できるようにするために、様々な医療関係者と連携を取り、地域・患者を支える薬局であることから利用してみたい。
一つの医療機関に留まらず、地域で連携する事で情報が共有され、気持ちに余裕が出来る。
万が一、入院や施設に入所することになった場合に地域連携で、地域の病院を利用できるのではないかと期待する為。
病院との情報連携、在宅医療で地域の薬局と連携する薬局なので、複数の医療関係者からの意見が聞けて、健康状態をより深く確認できると思われるから。
薬局が果たす役割は広がってきているのだなと思った。地域連携薬局があれば心強いと思う。市販薬の購入は胃薬ひとつとっても難しく、うまく利用できていないので、専門的なアドバイスを受けられれば安心である。
関係機関と情報の共有がされており、詳しく説明する必要がないので。

〔「4 地域連携薬局を利用したことはなく、今後も利用したいと思わない」の理由〕

医療機関の世話になる機会がほとんどないから。
どこにあるのか分からない
地域連携薬局とは？を読んだだけでは具体的にどのような恩恵があるのかわからないから。そこがわからないなら無闇に自分の情報を連携されたくないから
薬手帳があるのでわざわざ連携しなくても大丈夫だと思う
薬局の利用頻度が低いので検討したことがない。
処方するのは医者なのになぜ薬局に相談しなければならないのか、理解できない
個人情報漏洩の心配があるので
薬剤師が信頼できない。 お薬手帳を持っていても、重なっても同じような薬を出されたこと、こちらの質問にちゃんと答えられない経験があるので。
そもそも、病院ごとに薬局があり、その薬局ではおいてない薬も多い、つまり、病院との連携でしかなく地域を連携してるとは思えない
地域連携薬局という制度そのものの有効性がいまいち理解できていません。
現在定期通院している病院と薬局に任せているが特に不具合がないのでこれ以上に利用範囲を広げる必要がない

<7> セルフメディケーションについて、これまでの設問以外に意見がありますか。



(N=351 選択肢は1つのみ)

1	ある（次の設問で具体的に <input type="text"/> してください）	11.1%	(39名)
2	特にない	88.9%	(312名)

無回答 0.0% (0名)

[意見（抜粋）]

- ・最近耳にするのですが、県民皆様にはどうだろう？と思うこともあります。経費がかかるとは思いますが何か、もう少し県民の方々に分かりやすくご説明があると、広まりやすいのでは？
- ・セルフメディケーションは、それぞれ、きちんと理解し、意識して実践するべきだと思う。県としての体制も整っていると思うので、理解と協力を呼びかけ、啓発活動に、力を入れるといいと思う。
- ・健康サポート薬局や地域連携薬局のような望ましい取り組みがあるにもかかわらず、利用する機会が得にくいのは残念なことである。今後、県内の各地に積極的に拡大を推進して欲しいところである。
- ・セルフメディケーションについては、これからの超高齢化社会においてますます必要となってくると思う。が、現状では薬剤師の能力が追い付いていない薬局も多いと思うため、薬剤師自身のスキルアップが重要ではないかと考える。
- ・セルフメディケーションは高齢者にはむづかしいとおもう。特に現在の医療、薬剤、サプリの発達の中で、よいと言われたら飲む程度のセルフメディケーションでしかないとおもう。昔は保健師さんなどがそんな役割をしていたのかもしれないが、個人の特に情

報不足の高齢者には無理だとも思う

- 病院にかかることが無いため、薬局も利用していません。そのような解答もあったらと思います。日頃から健康にたいして運動や、サプリメント関連で、気を付けています。
- 「健康サポート薬局」や「地域連携薬局」の利用の仕方がよくわからないので県だよりなどの広報誌で特集を組んでほしいです。利用料がいるのかとかわからないので。
- 自分の健康は、自分でつくる。ということが大切だと思う。
また、具合が悪くなってもすぐに医者や薬に頼るのではなく、食べ物や休養など自分でできることをすることが大切と考える。”
- これから高齢化がさらに進むので、このような取り組みは良いことで、利用できるところが少しずつ増えればよいと思う。
- 今まで自分なりにしていたことが、そういう概念となり、社会に貢献できると分かり、今後も実践していこうと思う。